

特定非営利活動法人揚輝荘の会

キーワード：揚輝荘 異文化交流

活動地域：愛知県名古屋市千種区

活動地域概要：

名古屋市千種区内には神社仏閣や高等学校、大学等が多くあり、市内でも有数の文教地域として知られている。区の人口は約15万人。揚輝荘は(株)松坂屋の創業者伊藤家の第15代当主伊藤次郎左衛門祐民氏が1918年から名古屋東部の覚王山の約1万坪の森を切り拓いて造った別荘。完成時には、30数棟の建築物と南北の池泉回遊庭園が威容を誇り、各界著名人の迎賓館・社交場として活用された。茶会・月見の宴・園遊会・パーティなどが頻繁に催され、戦前からアジアの留学生が寄宿するなど、異文化交流の基地としての役割も担ってきた。その後数奇な運命を辿り、現在ではかつての面影は失われつつあるが、資産的価値は高い。



団体・活動概要：

「揚輝荘」がある地域は名古屋の別荘地として位置づけられてきましたが、昨今マンションの林立、緑地の減少問題などがあり、行政と住民の協働で新しいまちづくりが模索されてきました。その際に核となった組織「城山・覚王山地区魅力アップ実行委員会」のメンバーの有志が、市民主体で揚輝荘の保全・管理を行うとともに、コミュニティの拠点として活用することを目的として団体を設立しました。当団体は前年度からの継続助成対象団体ですが、指定管理者制度を視野にいれながら、前年度では市民参加型イベントの開催、建物の実測・清掃などを行いました。今回は、揚輝荘を異文化交流広場として捉えて交流イベントを行いました。また、前年度実測・清掃した茶室の修理・保全、長年放置されてきた庭の整備等の実施、各種PR活動のほか、特定非営利活動法人格も取得しました。揚輝荘は2006年度中に名古屋市に寄付され、市民共有財産になる予定です。これまでの活動実績やノウハウを活かして公有民営を実現するためにも、2006年度は団体にとって過渡期となることは間違いありません。



特定非営利活動法人揚輝荘の会

設立：2002年 メンバー総数：120名

代表者：鈴木賢一

連絡担当者：佐藤允孝

連絡先：〒464-0025 愛知県名古屋市千種区桜が丘166

TEL：090-7038-0646

FAX：052-781-6079

E-mail：satoyosi@sd.starcatt.ne.jp

ホームページ：http://www.pref.aichi.jp/chiki/LRDA/Da/da013

1 団体の目的と経緯

(1) テーマと目的

揚輝荘の保全・活用

「揚輝荘」は、(株)松坂屋の創業者十五代伊藤次郎左衛門祐民が大正7年から昭和初期にかけて名古屋の東郊・覚王山に築いた別邸である。1万坪の敷地に30余棟の各種・各時代の建築物が威容を誇っていた。池泉回遊式庭園は、修学院離宮を手本にしたもので、四季折々の風情を見せる。政・財・官・軍の人々、文化人、皇族など各界の要人の迎賓館・社交場であった。

戦前には、アジアの留学生が寄宿し、国際的・教育文化的コミュニティを形成していた。日本軍の接收、空襲、米軍の接收、独自寮への転進、マンション開発など数奇な運命をたどり、規模は縮小したものの、近代建築、歴史文化、庭園緑地、国際交流などの地域資源としての価値は今尚、その輝きを失っていない。

「揚輝荘の会」は、この多面的価値を持つ「揚輝荘」を地域の貴重な資産として保全・活用することによって、市民のための文化的・教育的なコミュニティを構築し、まちづくりへの貢献を果たしていきたいという目的で活動を続けている。

(2) 地域の状況や課題、この活動を始めたきっかけ、これまでの活動経緯

住民と行政の協働によるまちづくり

「揚輝荘」がある地域は、名古屋の東部丘陵の別荘地として位置づけられていた。周辺には神社仏閣や、文教施設も多く、文化の香りがただよう緑豊かな住

宅地でもある。しかし、近年マンションが林立し、緑地の減少とともに、新しい人口流入もあり、名古屋市のみちづくり長期計画の中で、この地域でも行政(千種区)と住民の協働で新しいまちづくりが模索されてきた。城山・覚王山地区魅力アップ実行委員会は、その核となる組織であり、建築・歴史・教育・環境・まちづくりなどの研究者・学生、地域住民、商店街、神社、寺院などの人々が加わっている。

「揚輝荘の会」は、平成16(2004)年に正式に発足した任意団体であるが、上記委員会のメンバーでもあり、こういった地域の団体や行政ともパートナーシップをとって地域の課題を調査しながら、まちづくり活動を推進している。市民参加型イベント(春秋の園遊会、お月見、音楽祭、お茶会、セミナー、シンポジウム、ワークショップ、建物・庭園の案内・解説など)の開催や近代建築・庭園緑地の手入れ・再構築の保全活動、市民への揚輝荘のPR・情報提供活動を継続的に行ってきた。

「揚輝荘」は、平成18(2006)年度中に名古屋市へ寄付される予定になっており、指定管理者制度も視野に入れて、平成18(2006)年3月には「特定非営利活動法人揚輝荘の会」の認証を受けた。

(3) 平成17(2005)年度の活動実績

A 市民参加型イベント

4月3日 「揚輝荘の春を楽しむ会 2005」

参加 250名(留学生数名参加)

- ・シャンソン、合唱、箏曲
- ・写真展、絵画、生け花
- ・弁当、お抹茶、
- ・建物・庭園説明

4月29日 「異文化に触れる」

参加 100名(外国人6名参加)

- ・狂言、抹茶、音楽とお話



最寄駅から揚輝荘までの地図

イベント「異文化に触れる」
狂言

・アリアナ平和基金と共催

6月24日「異文化交流会」

参加 51名 (外国人 28名)

- ・日米草の根サミットと共催
- ・狂言、講演

8月27日「日印交流会 in 揚輝荘」

参加 51名 (外国人 3名)

- ・お茶、お菓子、お話
- ・日印伝統芸能交流プロジェクト 2005

10月16日「インド舞踊の夕べ」

参加 100名 (外国人 数名)

- ・お月見企画 2005 in 揚輝荘
- ・インド舞踊、お茶

11月20日「紅葉を楽しむ会 2005 IN 揚輝荘」

参加 250名

- ・ギター、ボーカル、琴
- ・弁当、抹茶
- ・生け花展、写真展
- ・建物説明、庭園説明

3月26日「やまのて音楽祭 2006」

参加 150名

- ・庭園コンサート(白雲橋でソプラノ、テノール、ギター、コントラバス)
- ・女声合唱、アンサンブル風雅(聴松閣)

B セミナー

4月3日「揚輝荘の近代建築について」

名古屋工業大学麓教授

6月19日「揚輝荘の庭園について」

野村勘治氏

10月23日「まちづくりと歴史的財産の活用」

三重大学浅野聡助教授

11月19日「名古屋の近代化と伊藤祐民～揚輝荘を舞台として～」高木備太郎氏

3月5日「揚輝荘の意匠とインド建築」

愛知工業大学野々垣助教授

C 建物・庭園保全活動(建物 12回、庭園 20回)

- ・三賞亭(屋根修理、水道・電気工事、畳替え)
- ・揚輝荘座敷(掃除、中庭整備、障子張替え)
- ・庭園(落葉掃き、剪定)
- ・野外劇場(掃除、物置の修理・再構築、腐葉土撤去、鉄平石修理)
- ・西門付近整備(竹フェンス)



インド舞踊の夕べ

D 見学案内(93組、延べ数百名)

E マスコミ対応(約10回)

- ・11月12日朝日新聞(「揚輝荘」表札盗難)
- ・11月18日名古屋タイムズ(ワンダーランド揚輝荘)
- ・12月10日東海TV(名古屋市広報番組)
- ・12月29日中日新聞(揚輝荘トンネル、汪兆銘・



物置の整備前



物置の整備後

幻の隠れ家、稲荷の保存)

- ・ 1月19日朝・毎・読・中日新聞(名古屋市へ寄付)
- ・ 1月20日NHK朝のニュース(やまのて音楽祭)
- ・ 3月29日中日新聞(揚輝荘・田舎家移築候補地)

F 助成金(H&C財団、名古屋都市センター、名古屋市国際交流課)

G 拡大理事会毎月1回開催

H NPO法人設立準備委員会

(10月11日、11月21日)

「特定非営利活動法人揚輝荘の会」設立総会

(12月4日) 設立認証申請(12月8日)

設立認証(2月24日) 設立登記申請(3月8日)

設立登記完了届(3月17日) 税務届(3月28日)

I 市民(イベント参加者・見学者)へのアンケート調査(揚輝荘活用のニーズ把握)

J 名古屋市調査・研究活動への協力

研究委員会(8月11日、12月12日、2月6日)

専門委員会(8月30日、11月27日)

ワークショップ(9月18日、10月16日、11月13日、12月11日)

公募見学会(11月28日)

2 活動の内容

(1) 具体的な活動の紹介

建物・庭の整備 交流イベントの開催

今年度は、会の活動の中でも、戦前にアジアからの留学生が寄宿していた歴史に因んで、揚輝荘を「異文化交流広場」として捉え、その再構築と活用促進活動に対して助成を受けた。まず、資源としてのハードウェアでは、茶室「三賞亭」の修理・保全活

動による再構築と聴松閣・南庭の石造物などの再構築に取り組んだ。



野外ステージの整備の様子

「三賞亭」は、池泉回遊式庭園の辺りに位置しており、四季折々の風情を楽しめる好立地にある。しかし数十年に亘って物置として放置されており、傷みも激しく復元には、時間がかかった。平成16(2004)年度に受けた助成金で、清掃、障子張替えなどの一部補修、実測図面の作成などの調査活動を行った。幸い、平成17(2005)年度も連続して助成が受けられたので、上水、電気の引き込みを行ったり、たたみの張替え、周辺の露地の整地など茶席として使用可能な状態にする整備を更に促進させることができた。また、南庭の再構築は、数十年の放置で足も踏み入れられなかった状態を前年度から草刈、剪定などで整備し陽が差し込む状態に近づかせた。今年度は、特に腐葉土の撤去に努めたが、完成はまだ一部に留まっている。石造物の再配置・整備までは手が届かなかったが数度に亘る実地調査を行い、再構築図面の作成を造園の専門家に依頼した。

一方、異文化交流のソフトウェアとして、市民参加型の各種イベントを開催した。4月の「アリアナ



マンション開発部分から移設した石



聴松閣・南庭に再現された石庭

平和基金」との共催「異文化に触れる」、6月の「日米草の根サミット」との共催で「異文化交流会」、8月の「日印交流会」、10月の「インド舞踊の夕べ」など国際交流催事を続けた。その他のイベントにも外国人・留学生を出来るだけ招いた。

各イベントにおいて、「三賞亭」は、日本の伝統文化・茶道の実演紹介に活用し、庭園も日本文化の一つとして紹介できた。

(2) 活動の特徴、工夫点、苦労した点

資金に限界がある中で、建築・庭園の整備という技術的な活動は、困難が伴った。シルバー人材センターなどの手を借りたり、造園業者、大工などの応援を受けたり学者・専門家の知恵を借りたりしながらも主として会員のボランティア活動で達成した。

また、国際交流イベントの開催を進めるに当たっては、他の国際交流団体との協働を図るとともに、県や市の国際交流関係の助成金も要請した。留学生など外国人の参加を求めるために、周辺大学の留学生センターなどにPRを依頼したり、国際センターや通訳グループ、英文誌発行会社などにチャンネルとパートナーシップを求めた。

3 活動の成果

(1) 目的・目標は達成できたか

上記「三賞亭」の再構築は、揚輝荘の近代建築の目玉が充実したことになると同時に、日本文化の象徴としてのお茶席の実用化が図られ、その後のイベントでは、毎回呈茶会を組み込むことができるようになった。

また、南庭の整備によって、純和風の回遊式石庭が再現し、貴重な石造物などを目にすることができるようになった。お月見、茶会そして隣接する「聴松閣」での諸イベント(インド舞踊、インド音楽、日



聴松閣での建物案内

本舞踊、狂言、琴等々)と相乗して、揚輝荘の魅力アップにつながった。

(2) 地域や団体にどのような変化をもたらしたか
「揚輝荘」の戦前の留学生から発した「国際交流」というキーワードは、地域の内外人の参加を得て、まちづくりの一つのフェイズとして浸透していったと自負している。

会の内部でも「国際交流」というキーワードを推進することによって、その分野の人達の参加が増え会員の層の広がりが出来た。また、ハードウェアの再構築に当っては、専門技術者に全面的に委託しなくても、会員の熱意と努力によって成果が得られていくという喜びを感じることができたと考える。

(3) 活動に必要な資源(人材、資金、情報、ネットワーク etc.)をどのように活用し、新たに構築したか

建築・庭園の再構築に関しては、専門業者に完全に委託するのではなく、会員のボランティア活動を中心にしながら、工務店・造園業者などの専門家や会内外の学者・研究者と相談をして援助を受けつつ進めた。

国際交流イベントに当っては、関係行政及び外郭団体や大学やボランティア通訳グループ、NGO、異文化活動家、英文誌などにチャンネルを求め、出演者・参加者を募りネットワークを広げていった。

資金源としても、国際交流に限らず、5団体から148万円の助成を受けた。これらは、今期の実績のみならず、次期以降に向けても、会のノウハウ形成、人的ネットワークの構築に有効に生かされるものと考えている。



異文化交流会にて外国人に狂言の装束を着せてあげている様子

(4) 助成がどのような役割を果たしたか

平成16(2004)年度は「揚輝荘を異文化交流広場として構築する調査・研究・PR」として助成をいただき、主にまちづくりハードウェアの調査活動を行ったが、平成17(2005)年度は、「異文化交流広場・揚輝荘の再構築と活用促進」として助成を受け、継続してハードウェアの整備・再構築を進めるとともに、活用促進のソフトウェアとして国際交流イベントを推進した。

近代建築・庭園緑地・歴史史料という資源を活用して国際交流・異文化交流という切り口でまちづくり活動を推進していくことは、比較的取り組みにくい課題であった。外国人の参加を求めるには、あまり高額な参加料を徴収できず、イベント活動の費用の一部を助成金で賄うことができたことは、その活性化の大きな推進力となった。

また、ハードウェアの整備活動(茶室「三賞亭」が使用できるようになったこと、南庭が散策コースとして復元できたこと)による成果は、国際交流のみならず、今後の揚輝荘の幅広い活動に長期的に効果を発揮していくことになるであろう。

(5) その他、団体の視点から成果と思われること

助成金を活用して、国際交流という活動を行ってきたことによって、幅広い人脈ネットワークを形成することができ、今後の活動の力になると思われる。近代建築、庭園緑地、歴史史料を資源としたまちづくり活動は多数の事例が見られると思うが、それに



西門付近の竹フェンスづくり

国際交流というキーワードを加えて活動を行ったことは、揚輝荘という多面的なまちづくり資源の活用として評価できると思われる。そういった活動の方向性において、貴重な情報・チャンネルを得ることが出来たし、ノウハウの蓄積、会員の人材育成にもつながったと考える。

4 活動資金

(1) 助成活動における活動資金のうち、助成以外の財源の内訳とその割合

貴財団の助成の他に4団体から計68万円の助成金を受けた。それ以外の主な財源は、会費約50万円である。

(2) 助成期間終了後の活動資金確保の見通しとその方策

平成18(2006)年度は貴財団に3年連続の助成金を申請したが選外となり、その他に確定した助成金も無く、動資金が不足すると思われるので、建築・庭園などの整備はボランティア活動の範囲内で、イベント活動は参加費の範囲内で計画せざるをえないと考えている。平成19(2007)年度以降は、名古屋市からの受託内容(受託できるかどうかは指定管理者制度の適用など、現段階では不透明である)によって、活動内容が左右されてくるとされる。

しかし、会独自の活動を継続していくためには、



園遊会の様子



日印交流会 in 揚輝荘の案内

引き続き多分野からの助成金の取得が必要であり、平成18(2006)年度以降も、各種助成金に応募していきたい。

平成18(2006)年度は、会運営の過渡期となるが、これまでの活動の集大成を図るとともに、次への発展のための着実なステップとしたい。

5 課題

(1) 団体や活動の抱える課題と解決策

当会は、平成18(2006)年3月に特定非営利活動法人の認証を受けた。NPO法人の趣旨は当然、社会貢献であり、今年度からは、より社会的任務・責任が大きくなることを認識して、法人の責務として市民への目線を失わず、会の活動を推進していきたい。また、法人として、継続性のある組織運営、活動推進、人材育成、専任職員の配置も念頭に置いた運営を心がけていきたい。

そのためには、特に若い世代の会の活動への参加促進が課題となってくるが、幸いこの地域は学校などの施設が多く、文教地区としても特徴的である。総合学習などへの協力などにより、若い世代のニーズを十分に把握するとともに、その世代の参画を求め、協働して文化的・教育的なコミュニティの構築を目指していきたい。

6 今後の展望

(1) 団体や活動の将来像(今後の展開として検討・予定している内容や目標等)

「揚輝荘」は、平成18(2006)年度中に名古屋市に寄付されることになっている。これまでに蓄積した会の活動実績・活動ノウハウを生かし、公有民営の形を模索し、指定管理者を視野において、活動を展開していくことが不可欠な方向性である。またそのためには、揚輝荘の保安全管理・活用促進に対する会独自のプランを再策定し、プレゼンテーションをし、アピールしていく必要があると考えている。(既に2年前に市長への提案を提出している)



揚輝荘のパンフレット



異文化交流会の観客